

「三種の神器」といべき富田林の野菜

なす、きゅうりは**府内生産ナンバーワン**



海老芋は他にない
オンリーワン



本市は、古くから西板持地区を中心にナスやキュウリの施設栽培による収益性の高い農業経営が行われているほか、東条地区では丘陵地を活かし、ミカンの集団産地を形成しているなど、府内でも有数の農業が盛んな地域です。

写真のナスとキュウリ、海老芋の3つは、本市を代表する野菜です。ナスの品種は千両ナスで、品質が素晴らしく、全国的にも有名です。また、海老芋は、京都や東京の高級料亭で食されており、本市が誇るべき特産品です。

これらの他にも、市内の農業者の皆さんが、現場で汗水を流して、心を込めて生産した野菜は沢山あり、私たちは日々の生活の中で美味しくいただいております。

農業は私たちが生きていくうえで必要不可欠な「食」を支えている大切な第一次産業です。



食糧生産



国土・環境保全



生態系保全



教育



健康・レクリエーション



景観



資源リサイクル



福祉



雇用創出



防災



文化・伝統



新エネルギー創出

市民の豊かな暮らしの実現に向け、農業の果たす役割は重要！

農業には、「食糧生産」という大変重要な公益役割がありますが、それだけではありません。写真にありますとおり、「国土や環境の保全」や「生態系の保全」、「教育への貢献」、「健康づくりやレクリエーションの場としての活用」など、さまざまな機能があるとされています。こうした農業は、農業者の皆さんだけに関係することではありません。農業に活気があって健全に営まれていることで、市民の豊かな暮らしに繋がってまいります。農業が多様な公益機能を有することからも、その役割は重要であると考えています。

ポストコロナ社会の動向を見据え、富田林農業の将来ビジョンを策定（令和4年3月）

人と仕事と環境を育む 農業都市・富田林

— 農を楽しく豊かなものに —

価値

農業の高付加価値化

人材

農業の担い手の育成

農地

農地の保全・活用

健康

農業と市民とのつながり強化

環境

環境への貢献

観光

観光との相乗効果

大切にしていかなければならない農業ですが、近年は農家の高齢化や担い手の不足、耕作放棄地の増加など、非常に厳しい状況にあります。

しかしながら、一方では、新型コロナウイルス感染症による市民の暮らしの変化や、食の安全安心を求める消費者ニーズの高まり、持続可能な社会づくりに向けたSDGsの推進など、これまでとは大きく社会情勢が変わりつつある中、農業が非常に注目を浴びつつあるのも事実です。

本市としましては、こうした現状や課題、新たな動向を踏まえたうえで、令和4年3月に富田林農業に希望の光を照らすビジョンを策定しました。

将来像を、人と仕事と環境を育む農業都市・富田林とし、実現に向けた取組の大きな柱を6つ立てました。

1つ目に、価値です。

富田林農業の強みである高収益農業を維持し、更には発展を目指します。このため、現在頑張っておられる専業農家の皆さんを応援します。

2つ目に、人材です。

市内の若手専業農家の皆さんが中心となり、自分たちで後継者を育てる取り組みとして、昨年8月に「富田林市きらめき農業塾」を立ち上げられました。本市としても、この「きらめき農業塾」の取り組みには大変期待をしています。

3つ目に、農地です。

農業の担い手の育成と大きく関係しますが、農業が健全に営まれ耕作放棄地にならないよう、地域での話し合いに本市も関わっていくなど、農地の保全や活用を進めてまいります。

4つ目に、健康です。

近年は、市民の皆さんから農業に関わりたいという兆しがございますので、農業体験やマルシェなどを通じて、農業と市民との繋がりを強化してまいります。

5つ目に、環境です。

本市は、SDGs未来都市として、内閣府より令和2年に選定されています。今後は、農業の分野においても、環境へ貢献していく様々な取組が重要となってまいります。

6つ目に、観光です。

本市の東条地区には、府内でも数少ない大型の農業公園「サパーファーム」があります。市民の皆さんに、今以上に、「富田林産の食」や「身近に体験できる農」を提供する施設として、観光との相乗効果を図り活性化してまいります。

この富田林市農業振興ビジョンでは、様々な取組を明記していますが、これらはどれ一つ、決して行政だけで進められるものではございません。目標の実現に向けては、農業者をはじめ、関係する民間の事業者の皆さん、そして何より市民の皆さんと一緒に取り組んでいくことが重要と考えています。